

令和3年1月18日

保護者の皆様

豊見城市立とよみ小学校
校長 上原 義仁
(公印省略)

家庭学習(宿題・自主学習)の取り組みについて

時下、保護者の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、学校ではこれまでも子どもたちに家庭学習を課してきましたが、その目的や方法等が明確に統一されていない状態でした。
そこで、今後は、家庭学習の目的を児童自ら学ぶ力や自己調整力を育成すること等とし、下記のとおり対応することと致しました。
内容をご理解の上、今後ともご協力いただきますようよろしくお願い致します。

記

1 主な変更点

- 家庭学習の目的を明確にし、目的の達成に向けた取り組みをする。
- 家庭学習を宿題と自主学習に明確に分ける。
宿題： 教師が出す課題。主に授業と関連した内容や児童にとって必須な内容を課す。
自主学習： 児童が自ら取り組む学習。得意なものや苦手なもの、特に伸ばしたい分野など、児童が考え、判断し実行する。

2 主な内容

(1) 目的

- ① 自ら学ぶ力、自己調整力(自らの学習を調整する力)を育成する。
- ② 自ら継続的に学習することができる習慣を身につける。
- ③ 学ぶことを嫌いにさせない。

(2) 方法(自主学習)

- ① 自主学習は、児童が自分自身の得手不得手や興味などを根拠に自分自身で計画して取り組む。
- ② 一週間の学習内容や時間などを児童が自分で計画して取り組む。
- ③ 計画表や自主学習帳の使い方は学校で指導し、当面は、学校で計画を立てる。
- ④ 4年生以上は学級で輪番制のリレーノートを活用する。他の児童の学習の仕方を見ることで自分の自主学習に活かす。
- ⑤ 自主学習ノートの確認を保護者に依頼する。担任は、週一回以上自主学習ノートのチェックを行う。

3 保護者の皆様へのお願い

- (1) 自主学習ノートの内容の確認をお願いします。
その際、できるだけ良いところを見つけて褒め・励ます言葉を記載してくださるようお願いいたします。
- (2) 児童は、最初は戸惑うかもしれません。保護者と担任から、褒め・励ましの言葉をかけてあげながら、自主的に学習ができる児童に育てていきたいと思っております。暖かい見守りと優しい激励の言葉をお願い致します。

裏面もご確認ください。
(関係する資料の引用を記載しています)

本校では、児童の主体性を育み、自ら学ぶ児童を育てるために、今後は、家庭学習を宿題と自主学習にわけて取り組みます。
下記および右記に、自主学習に関する資料の引用を掲載します。

自主学習と宿題の比較 (●はプラス面、△はマイナス面)

	自主学習の特徴	宿題の特徴
子ども観	●子どもは学ぼうとする存在であり、任せると自分から学ぼうとするものである。	△子どもはは放っておいたらさぼってしまうので、勉強させる必要がある。(★)
学習内容	●学び方を学んでいるので、いろいろなことに応用できる。 ●それぞれの課題にあった内容の学習ができる。 ●いろいろ選べるので、工夫が生まれる。 ●予習や復習、調べ学習など多様なメニューがある。 ●それぞれのつまずきや課題にあったものに取り組みめる。 △さぼることができてしまう。	●課題が全員同じなので、さぼると見つかってしまう。 △学力が中位の子に合った内容が出される。 △学習内容を学んでいるので、使える知識が限定されてしまう。 △クラス全員が一律に同じことをやる。 △授業の残りの問題やプリント等、学習内容が決められているので、工夫が生まれにくい。
意 欲	●家に帰ったら自分から始める。 ●(やることがわかり)自信が付いてくると、自分からやり始める。 ●おもしろいのでやりたくなる。 △内容を自ら考えるので、浮き沈みがある。	●見通しが立っているので、気軽にできる。 △学習に対して受け身となってしまう。 △やらされていると感じ、意欲的になれない。
個 人 差	●学習量が個人によって異なる。(時間制) △誰もがはじめからはできず、練習が必要。 △身につくまで時間がかかる。	●授業の復習なので、誰にでもできる。 ●平均的な学習内容を身につけられる。 △学習時間が個人によって異なる。(分量制)
計 画 力	●自分で学習をデザイン(計画)する力が身につく。 △見通しを持てるまで時間がかかる。	●学校の復習のため、やり方の見通しが立ちやすい。 △言われてやるので、計画する力はつかない。
ノ ー ト	●年間数十冊のノートが見える化され、自信となる。 ●ノートづくりが上手になる。	△積み重ねが見える化されにくいので、なかなか自信に繋がらない。 △ノートづくりにはあまり繋がらない。

※ 伊垣尚人著「子どもの力を引き出す自主学習ノートの作り方」(ナツメ社)より抜粋

★ 本校では、宿題を上記の子ども観では捉えておらず、宿題を「学校の授業とリンクした学習等」とし、今後も継続していくこととしています。

自主学習の特徴
①ひとり一人が自分に合った家庭学習を選べるため、学習に対して主体的になれる。 ②1日の学習、1週間の学習計画について「ふり返し」をしながら進めることで、「学び方」を学ぶことができる。 ③1冊のノートに努力が積み重ねられ「見える化」されるため、自己肯定感が高まる。 ④家庭で自分から勉強する習慣を身につけることができる。 ⑤学ぶことが楽しくなる。

※ 伊垣尚人著「子どもの力を引き出す自主学習ノートの作り方」(ナツメ社)より抜粋

進め方のポイント
①集中できる環境で、必要な道具をそろえておく。 ②今日の目標時間を設定する。 ③「めあて」を書く。 ④自分で答え合わせをして、わからなかったところの確認をする。 ⑤終わったら「ふり返し」を書く。 ⑥家族の確認(→できる限り前向きなコメントをお願いします。)
(子どもたちの声から) これでやる気スイッチが入った! ①ポイント： <u>頑張ったことを認める。工夫を褒める。励ます。</u> ②具体例： <u>すごい! さすが! がんばったね。その調子。ていねいな字で書いているね。これで〇〇は完璧だね。ここの〇〇がいいね。前より上達しているね。すごく良い勉強をしているね。〇〇が正確に書けているね。</u> ③プラスの声かけを。 <u>頑張っているときは、ストレートに褒めてあげるのが基本。ちょっとさぼりぎみかな?と思うときも「どうしてやらないの」「またさぼっているの」と頭ごなしに叱るよりは、まず「君ならできるよ」「頑張ってください」等プラスの言葉をかける方がその気にさせやすいようです。そうは言っても、実行するのかなか難しいかもしれませんが、でも、文字だけでも褒めることを繰り返しているうちに「気づいたら、ほめ上手になっていた」と言う保護者もいらっしゃいます。</u>

※ 「やる気スイッチが入る『秋田県式家庭学習ノート』で勉強しよう」(主婦の友社)より抜粋(一部修正)